

市電 801 型 801 号車・2201 型 2201 号車・3001 型 3050 号車、  
トロリーバス 200 型 255 号車 4 輛

市電 801 型 801 号車・2201 型 2201 号車・3001 型 3050 号車、トロリーバス 200 型  
255 号車

しでん 801 がた 801 ごうしゃ・2201 がた 201 ごうしゃ・3001 がた 3050 ごうしゃ  
トロリーバス 200 がた 255 ごうしゃ

指定有形文化財

歴史資料

所有者

大阪市高速電気軌道株式会社

所在地

大阪市住之江区緑木  
大阪市城東区森之宮

紹介

明治 36 年(1903)7 月に開業し 1969 年 3 月まで営業した大阪市電は、近代大阪の市内交通の重要な役割を担った。1910 年代後半からは商工業が盛んになり、それに伴い市内の交通網が整備された。以降、先の戦争までの間は市電の黄金期とされる。



市電 801 型 801 号車

801 号車は 1932 年に製造されたもので、利用者の増加に伴う大量輸送に、少ない乗務員で対応できるように、後扉を廃止し左右非対称の形式とした最初の車両である。



市電 2201 型 2201 号車

2201 号車と 3050 号車は戦後の復興期に製造されたもので、2201 号車は 1954 年製造のゴム入り車輪を用いた防音車両の先駆けである。



市電 3001 型 3050 号車

3050 号車は 1956 年製造の市電最後の新造車両で、最高水準の無音電車と称された。



トロリーバス 200 型 255 号車

1953 年 9 月に運行開始したトロリーバスは、当初は廃止路線が増える市電の代替交通として機能したが、道路混雑とともに効率が低下し、1970 年 6 月に廃止となった。255 号は 1956 年式の 200 型車両で、トロリーバスの唯一の保存車両である。